
雨の日のキス。 / 神楽 × 沖田

音紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の日のキス。 / 神楽×沖田

【Nコード】

N3990D

【作者名】

音紅

【あらすじ】

雨の日。銀時にお使いを頼まれた神楽はその序でに駄菓子屋へ行くが…

（前書き）

これは漫画『銀魂』を元にした小説です。
神楽×沖田が嫌いな方、又、どちらかが嫌いな方はお引き取り下さい。

「むう……」

神楽は不機嫌そのものの顔で、窓の外をを睨んでいた。

「んだあ、神楽。そんなに外に出てえのか？ だったら丁度良いや。ジャンプ買ってきてくれや」そんな彼女を見下ろしていた銀時は、そう言い付けた。

「はあ？ 何言ってるアルか。まだジャンプ買ってなかったのかヨ」

「ここ最近忙しかったろーが。んなときに買いに行けるか」

「いつも気がつけば買いに行ってるアル」

「ん？ 何か言ったかー」

「別につ何も無いヨ。行ってくるアル」

パシヤパシヤと水溜まりに入りながら、適当なコンビニへ向かう。

「ありがと有難う御座いましたー」

今週号のジャンプを持ったまま、駄菓子屋へ行く。

「！」

その途中の道。路地の入り口に、小さな段ボールが置いてあった。

「これは」

中には子猫が二匹。

雨が降っているため、二匹は濡れていた。

神楽は、万事屋にいるであろうあの男を思い出す。

そして申し訳なさそうに表情を歪ませた。

「……ごめん。万事屋には血も涙もない天然パーマがいるから連れてけないヨ」

持ってきていた銀時の物であるビニル傘を、雨避けにと置いていった。

駄菓子屋に着く頃には雨脚が強まり、ずぶ濡れになっていた。

「酢昆布、あるアルか？」

もう恒例となった台詞。

けれど返ってきたのはいつもとは違うものだった。

「ああ、酢昆布はさつき売れちゃったんだよ」

「え……」

「いつも公園で昼寝をしてる人がね、ついさっき」

そこまで聞いて、神楽はピンときた。

（アイツ　　！！）

雨が降っている中、公園にいる馬鹿はいないだろう　　けれど、彼

女は公園へ行った。

いる気がした。

そして、文句の一つでも言っただろうと思っていたのだ。

「うおいサド野郎……」

人気のない公園で、神楽の声は響いた。

暫くして。

「……んだコラ……るせえんだよ。折角、人を待ってたんだから仕事とか勘弁して下せエ……」

「誰待ってるアルか」

「だーかーらー……」

沖田はアイマスクを取った。

目の前に神楽の顔がある。

「うおっ」

「可愛い子がわざわざ文句を言いに来てやったアルよ。もうちょつとマシな反応は出来ないのかお前」

「はっ……可愛い？そんな奴、何処にいるんでイ」

「目の前にいるアルよ。……っかそんなことどーでも良いアル。私から酢昆布を奪って、誰を待ってるアルか？」

「……！！まさか、さっきの、聞いてたんですかイ…？」

「当たり前アル。今この公園にいるのは私とお前だけヨ」

「待ってた甲斐がありやした…」

「へ…！？」

すると神楽の髪から、雨の雫が落ちた。

自分の先程の言葉を思い出し、赤面する沖田は、誤魔化すように話題を変える。

「お前、傘は」

「…置いてきたネ」

「馬鹿か」

「フンツ！ほつとくヨロシ」

「…ほつとけねえなア」

優しく沖田が言うつと、神楽を思い切り引き寄せた。

「…！？」

言葉が出ない。

ゆっくりと唇を離すと、沖田の整った顔が間近にあった。

「傘代でさア。…それ使って下せエ」

「ばっ…！！私の唇は傘代なんかじゃ足りないヨ。酢昆布と、もつと別の物、よこすヨロシ」

「んー？じゃあ傘代＋酢昆布＋欲しい物で良いですかイ？」

神楽の頬が赤くなる。

「…それで良いヨ」

もう一度、唇を重ねた。

翌日、二人が風邪を引いたのは言うまでもない。

（後書き）

初投稿作品です。

どうだったでしょうか？

感想をお聞かせ願いますと共に、好きなカップリングなども教えて
下さると嬉しいです

銀魂のみならリクエストもOKですので…

音紅

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3990d/>

雨の日のキス。/神楽×沖田

2010年10月12日14時18分発行